

私の父は農家です。でも、私は、特に農業に関心が高いわけではありませんでした。五年生の社会科で、「わたしたちの生活と食料生産」という内容を学習しました。そこでは、農家が昭和四十五年から現在までの約五十年間で、五分の一ほどに減っている事や、食糧自給率が二十パーセントほど減っている事を知りました。その事がきっかけで農業が減っていったら日本はどうなるのかと考えるようになりました。

アスパラ農家である父に、農業についていろいろ尋ねてみました。まず、農業はどんな所が大変かと聞いてみました。大きく分けて二つあるという返事が返ってきました。一つ目は朝がとて早い仕事だという事です。毎日四時頃に起きなければいけないと言っていました。アスパラは成長がとて早いので、一日に二回収穫しなければならぬからです。二つ目は休みが無い仕事だという事です。学校の花も、毎日水やりをしなければ枯れてしまうように、農作物も同じで、毎日面倒を見て、世話をしなければ良い作物に育たないと話していました。次に、父が農業を仕事にしたきっかけを聞きました。すると驚く事に、興味などではなく、現在の農業の様子を見て決めた事だということです。私達は高郷に住む前は、埼玉に住んでいて、年に二、三回ほど故郷の高郷町夏井に帰り、周りの畑を見る程度だったそうです。誰も使っていない荒れるだけの畑を見る度に、とて寂しく思ったそうです。その感情がどんどんふくらんで、自分で農業を始めようと決めたとの事でした。今は農業は生活そのもので農業を始めて良かったと言っていました。父の話聞いて、若い人達を中心に農業離れが起きている理由が分かったような気がします。

私は父の仕事の手伝いをしています。同じ姿勢で、収穫したアスパラの長さを全て揃えるという仕事をしているのですが、これが結構疲れます。私の手伝っている仕事の何倍も疲れる仕事を毎日している父を誇らしくさえ思います。収入を得るための農業ではありませんが、父にはそれだけではない農業に対する思いや故郷への思いがあるように感じました。社会の学習でも学んだ事ですが、農業は日本の食を支えている事、今のままでは日本の食に問題が出てしまう事が私の心配な事です。自分達の食の安全を守るためにも食糧自給率を上げる事が大切だと思います。でも、それにはたくさん課題もある事は知っています。六年生の私ができる事は、父の手伝いをして野菜を育て、世話をしっかりやっていく事です。農業は大変な仕事がたくさんありますが、それ以上に収穫した時の喜びは格別です。これからも父といっしょにアスパラの収穫を続けて、緑豊かな夏井の畑の風景を大切に守っていきたいと思っています。